

Small-cell carcinoma of the ovary hypercalcaemic type shows a wild-type immunohistochemical staining pattern of p53.

Kommoss FKF, Schmidt D, Kommoss F, et al. Histopathology. 2023;83:154-156.

要旨

TP53 不活性化変異は卵巣高異型度漿液性癌と強い関係があり、癌肉腫や高異型度類内膜癌、粘液癌などでも検出される。従来の *p53* 免疫組織化学的染色の定量的解釈(旧法)は *TP53* 変異状態と十分な相関関係を示せなかったが、現在推奨されている pattern base の定性的評価(新法)は *TP53* 変異状態とほぼ一致することが示されている。卵巣高カルシウム型小細胞癌 small-cell carcinoma of the ovary hypercalcaemic type, SCCOHT は若年女性に生じる稀な高悪性度癌であり、*SMARCA4* 不活性化変異で定義づけられる。SCCOHT の *p53* 発現状態は旧法を用いた *p53* 免疫組織化学的染色の結果により、びまん性陽性を示すとされている。しかし、SCCOHT の *TP53* 変異は報告されたことがない(抄読者作成の追加参考図)。そこで筆者らは新法を用いて SCCOHT の *p53* 発現状態を明らかとすべく検討を行った。

免疫組織化学的に *SMARCA4* の発現消失が確認され、SCCOHT と診断された 20 例を新法による *p53* 免疫組織化学的染色により評価した。

用いられた 20 例全例が *p53*wild type であった(Fig. 1)。染色強度は低～中等度で、陽性率は 10~70%であった。

Take Home Message

1. WHO 分類他、正書に記載されている *p53* 免疫組織化学的染色の結果の大部分は旧法によるものであり、*TP53* シークエンスと一致しないことが知られている。
2. 当院では新法を導入しており、正書の *p53* に関する記述と一致しないことがあることを知っておくべきである。
3. 正書に「*p53* の過剰発現をみとめる」と記述されている腫瘍に関しては、cosmic などでシークエンス結果を確認し、SCCOHT のように *TP53* 変異がなければ、本論文のように *p53* を染色するだけで報告する事が可能となる。